

*:

1 ポートエッセイ 「“釜石の奇跡”に学ぶこと」

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

先月中旬、群馬大学大学院の片田敏孝教授の講演を聴いた。片田さんは、昨年3・11大震災の際、学校にいたすべての小中学生が無事に避難し「釜石の奇跡」と呼ばれた防災教育を実施された方だ。素晴らしいお話だったので、ご存じの方も多いと思うが紹介したい。

片田さんが防災教育に取り組む前、釜石では「脅しの防災教育」が行われていたという。「三陸は怖いところで必ず津波がくる」「中でも釜石は大変な所」—などと子どもに怖さを教え込んでも、「危機意識は長続きしないし、本当に受け止めた子どもは釜石が嫌いになってしまう」と片田さん。

もう1つやられていたのが「知識の防災教育」だったそうだ。「単に知識を与えることは想定にとらわれてかえって危険」だと言う。例えば釜石では明治三陸地震の際の大津波を基準にハザードマップをつくり、市民に配布していた。マップで「うちは津波エリアから外れている」と確認すると、人間は安心してしまいがちだ。しかし、3・11は明治三陸をはるかに超える大津波であった。釜石の犠牲者の大半は、マップでは津波被害を免れる地域の方たちだったそうだ。

片田さんの防災教育の柱は3つである。1つは「想定にとられるな」。行政などが示す基準にとられないことだ。2点目は「最善を尽くせ」。高台を目指し、行けるところまで逃げる。3点目は「率先避難者たれ」。率先して避難すれば他の人も避難するようになり、多くの人を救える。

現に釜石では中学生が率先して避難し、小学生に「逃げろ」と呼び掛けた。子どもたちが血相を変えて逃げる姿を見て、お年寄りも逃げた。こうして釜石の防災教育は多くの市民も救ったのだという。全国でこの防災教育を活かしたい。

*:

2 トピック

*:

●「ザ・シンポジウムみなとin室蘭」の開催

(ザ・シンポジウムみなと実行委員会)

11月21日(水)、ザ・シンポジウムみなと実行委員会主催による「ザ・シンポジウムみなとin室蘭～世界と日本の産業を支える室蘭港の未来をみつめて」が約260人の来場者のもと室蘭市市民会館大ホールで開催されました。

「ザ・シンポジウムみなと」は、地域の発展の核となる港湾について、様々な立場から見た北海道港湾の将来の方向に関する意見を紹介していただき、道民の方々に港湾の重要性や必要性を理解していただくとともに、広く港湾をPRすることを目的として開催しています。

今年度は開港140周年を迎える室蘭市を舞台に開催され、シンポジウムの第一部では、東京都市大学の中村英夫学長が「世界の産業の情勢と新たな飛躍をめざす室蘭港の今後の戦略」と題した基調講演を頂きました。第二部のパネルディスカッションでは室蘭工業大学の加賀谷誠一理事をコーディネーターに、室蘭市 青山市長、北海道経済連合会 浜田剛一常務理事、NPO法人羅針盤 白川皓一理事長、フリーアナウンサーの野宮範子氏をパネリストとしてお迎えし、「室蘭港の新たな飛躍に向けて」をテーマに活発な議論が行われました。

質疑応答では市民の方からの質問もあり、北海道の産業を支える室蘭港に対する地元の期待と熱意を感じるシンポジウムとなりました。



●「第9回 美しい中部のみなとまちづくりフォーラム」が熱海で開催されました

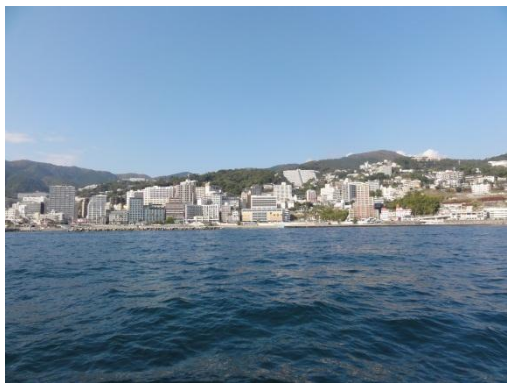
(中部地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)

平成24年11月19日(月)に、「第9回 美しい中部のみなとまちづくりフォーラム」(主催:NPO法人都市環境ゼミナール(会長:伊藤達雄三重大学名誉教授)、熱海市、後援:中部地方整備局、静岡県等)が静岡県熱海市にて開催されました。

本フォーラムは、「みなと」を核として地域振興を図る「みなとまちづくり」や、人・モノの交流活性化、観光振興のための方策等について、講演や参加者間での議論を行い、みなとまちづくりを応援することを目的として、毎年中部地方整備局管内の港湾で開催されています。

当日はNPO法人日本ビーチ文化振興協会の瀬戸山理事長より「目指すべきビーチライフ～ビーチで人が通年集える環境、利用できる環境～」、(株)海事プレスの若勢相談役より「クルーズ船誘致による観光振興について」と題した基調講演が行われ、さらに、地元熱海市で地域づくりに携わっているNPO法人 atamista(アタミスタ)の市来代表より「熱海のまちづくりの取り組みについて」と題した基調報告が行われました。パネルディスカッションでは、都市環境ゼミナールの伊藤会長がコーディネーターとなり、熱海商工会議所の鶴澤会頭、熱海温泉ホテル旅館協同組合おかみ会の藤間理事、第27代ミス熱海梅の女王の高木氏などが参加して、熱海の活性化についての議論が行われました。議論では「大型クルーズ船の寄港やにぎわいの拠点となる熱海港の整備が必要となる」「熱海の情報・魅力を発信する手法を工夫する必要がある」「社会実験を活用したまちづくりを進める」等の意見が出されました。

当日は熱海市民を中心に約100名程度の参加があり、熱海のまちづくりに対する関心の高さがうかがえました。



海上から見た熱海市の様子



パネルディスカッションの状況

●三河港豊橋コンテナターミナル見学会及び東三河物流センターの開催

(三河港振興会・東三河広域経済連合会)

10月9日に、ポートセールス活動の一環として、「三河港豊橋コンテナターミナル見学会」と「東三河物流セミナー」を開催し、東三河地域の製造業や卸売業の経営者、物流担当者など、累計約250人の方にご参加いただきました。

当日は天候にも恵まれ、普段立ち入ることのできないコンテナターミナルを海上および陸上から、様々な角度で見学いただき、平成23年に過去最高のコンテナ取扱量(39,503TEU)を記録するなど、着実にその利便性を高めている状況を実感いただきました。

また、物流セミナーにおいて、日通総研から「経営力向上を果たす物流改革とは」と題して、豊富な物流コンサルタント経験に基づいた企業経営におけるグローバルな視点からの物流改革の重要性について、芝刈り機のトップメーカー共栄社(豊川市)から「三河港の活用事例」と題して、他港から三河港利用へ転換したメリット等について、それぞれ講演いただきました。

三河港振興会では、コンテナ荷主に対する各種助成金制度の実施などにより、コンテナターミナルの利用促進及び各企業の物流をサポートしておりますが、今回のような機会を捉え、最新の情報を提供すると共に、様々な荷主を対象に三河港活用を検討いただけるような有益な情報を提供していきたいと考えています。



三河港豊橋コンテナターミナル見学会の様子



東三河物流セミナーの様子

●中国・四国地方最大の都市 広島市の海の玄関 広島港がみなとオアシスに正式登録
(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)

「みなとオアシス広島」が平成24年11月10日に中国地方としては9番目、全国では67番目の「みなとオアシス」として正式登録されました。

当日は、「太平洋の白鳥」と称される帆船「日本丸」の寄港に併せて開催されたイベント「帆船フェスタひろしま2012」の会場において、登録証が交付されました。

「みなとオアシス広島」では、「広島港宇品旅客ターミナル」等の港湾施設を利用し、市民主体の様々な取組がなされております。今後も様々なイベントを通じ広島港周辺の更なる賑わいの創出が期待されます。

中国地方整備局としても各「みなとオアシス」における「みなとまちづくり」の取組等について積極的に協力・支援を行っていきたいと考えております。



みなとオアシス広島 本登録式



帆船フェスタイベント

【みなとオアシス広島のHP】

<http://www4.city.hiroshima.jp/minato-oasis/>

●海辺の自然学校“海老干潟いきもの調査隊”の実施

(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)

平成24年11月10日(土)に尾道市浦崎町の海老人工干潟で 海辺の自然学校“海老干潟いきもの調査隊”を実施しました。当日は、総勢46名の方々に参加頂き、午前中に座学、午後からフィールドワークを行いました。

座学では私たちの暮らしと自然との関わりなど勉強し、地元の海で採取したプランクトンを顕微鏡で観察しました。また、フィールドワークでは実際に人工干潟に行き、そこに住む生き物たちを自分たちで探し出し、干潟で生き物たちがどのように住み分けしているのかなどの観察を行いました。

参加した小学生には“普段意識していない干潟でたくさんの生き物を見ることが出来て楽しかった”などの意見を頂くことが出来ました。



顕微鏡を用いてプランクトン観察



実際に干潟に出て生き物観察

●熊本港ガントリークレーン完成式典 ～ガントリー稼働開始～

(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

10月29日(月)、熊本港に初めて設置されたガントリークレーンの完成式典が開催されました。このガントリークレーンは静岡県清水港で使用されていたものですが、クレーンの大型化に伴い不要となったため、熊本県が静岡県から格安で購入したものです。大きさは縦約16m、横約28.3m、高さ約76mで、最大30.5tのコンテナを吊り上げることができます。

今後は精密機械等の輸送も可能となり、物流コスト及び二酸化炭素排出の削減が図られ、熊本港の需要がさらに高まることが期待されています。



ガントリークレーン



完成式典の様子

